

「エゴイズムと自己表現」の授業実践の成果と課題について

笹川, 孝一

(出版者 / Publisher)

法政大学資格課程

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学資格課程年報 / 法政大学資格課程年報

(巻 / Volume)

6

(開始ページ / Start Page)

15

(終了ページ / End Page)

18

(発行年 / Year)

2017-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00013974>

「エゴイズムと自己表現」の授業実践の成果と課題について

法政大学キャリアデザイン学部教授 笹川孝一

1. 受講生が真剣な授業「エゴイズムと自己表現」

「現代社会と社会教育」という社会教育主事課程の科目であり、同時に「生涯学習論」というキャリアデザイン学部の科目でもある「エゴイズムと自己表現」（火曜日3限、担当者笹川）は、一昨年以来、私の授業の中では、近年にない緊張感のある授業だった。その1つの理由は、「エゴイズム」をめぐる葛藤が学生たちの中に強く存在しているからである、また、もう1つの理由は、「エゴイズム＝利己主義＝悪いこと」という図式が多くの学生たちの認識装置として定着しているために、出口が見出しにくくなっているからである。そして、この授業が、「ああ、そういうことなのか！」という解決の道を示したということがあったからだと考えられる。そこで、学生たちとの今後の対話のために、また広く、日本や韓国、中国・台湾・香港・ベトナム等のアジア諸国、アメリカやEU諸国での対話のために、授業の経過、またそれについての考察を記しておく。

2. 授業の展開と配布資料

(1) 受講生の数と構成

2016年度の、この授業の受講生は60人ほどで、そのおおよそが3年生と4年生で、2年生は10数人だった。男女比は女性が6割、男性が4割程度だった。この時期、4年生は就職活動が盛んだった。それで、4年生たちは民間の就職活動が一段落しかかった6月ごろから出てくる人も少なくなかった。

(2) 最初の配布資料と解説、学生たちの反応

授業の初めに、前年の授業を踏まえて書いた「エゴイズムと自己表現（覚え書き）一人と自然と社会のキャリアデザイン・生涯学習の視点から」（『法政大学資格課程年報』第5号 法政大学資格課程 2016年3月）を配布した。

そこには、おおむね次のことが書かれていた。2017年度の授業の便宜のために、補足をしながら、その趣旨を記しておく。

- ① 多くの人たちが「エゴイズム」を「自分勝手」で「悪い」こととしてとらえている。そのために、適切な自己主張とそれを互いに認め合ったうえでの調整、協力、制度設計と運用ができず、苦しんでいる。それは時に内向し、個人の次元での「いじめ」、会社などでの組織の次元での「不当労働行為」や権力の乱用と迎合・「付度」、企業経営における粉飾決算や政府による経営介入、企業倒産などが、日本の内外で頻発している。中国の「汚職」なども同根と考えられる。また、それが定着しているように見える。また、アメリカなどでも、一人一人の人が適切な表現手段を磨けていないために、「暴力」「差別」「偏見」などが払拭できない。
- ② しかし「エゴイズム」とは、「自分勝手」で「悪い」ものではなく、いわゆる「利己主義」とは異なるものである。それは、自分を軸に世界をとらえることを互いに尊重しあうことである。それは、世界を軸に自分をとりえることと対になるもので、社会的な共同を促進するものである。
- ③ また、それは、産業革命以後の大量生産・大量消費社会を基盤とする個人契約社会・新しい共同社会を基盤としていること。
- ④ 信長・家康の時代の日本では、今日のスペイン・ポルトガル・イタリアにあたる地域よりも女性たちは自由であったが（ルイス・フロイス『ヨーロッパ文化と日本文化』岩波文庫）、江戸時代に入って意識的に導入された「朝鮮朱子学」の浸透によって、身分制が確立し、とくに女性たちの地位が低くなったこと。
- ⑤ その象徴が貝原益軒『和俗童子訓』の「卷之五 女子を教ゆる法」であり、そこには「女は内にいる」べきこと、男に従う「三従」「七去」が記されており、これが独立して『女大学』となり、1945年まで女子教育の教科書として使われ続けていたこと。
- ⑥ 明治になって、福沢諭吉はこれを批判して『学問のすすめ』、後には『女大学評論』『新女大学』を書き、女性も男性と同等の権利をもって自立すべきこと、男性も女性も同じ学問をして、同じ教育を受け、「自立自尊」の人間となるべきことを説いた。そしてこ

れは、明治初年には、政府の方針ともなった。

- ⑦ しかし、明治 22 年の大日本帝国憲法、皇室典範、いわゆる明治民法と教育勅語は、天皇主権、皇位継承の男系の皇男子孫への限定、女性の財産権はく奪、天皇家と大日本帝国を支えるための教育を法によって規定した。これによって、個人の自由な認識や自己表現、社会的協働の推進は大きく制約された。
- ⑧ こうした状態を変えようとする動きはその後断続的に続いた。例えば夏目漱石は学習院での講演、「私の個人主義」で、認識主体としての「自己」「自我」の大切さを説き、「自己本位」「自我本位」を強調したが、それは他の人々の自己、自我も認める「自己本位」であり、それをお互いに大切にしたいような国家をつくること、税金をそのような方向で使うことを主張した。
- ⑨ また、自由民権運動などの流れを引く、民主主義運動、女性解放運動、農民運動、労働運動、被差別部落解放運動、表現の自由運動などが国家による弾圧の下で、粘り強く続けられた。
- ⑩ これらを受けて、大日本帝国の敗戦後、日本国憲法、新民法、教育基本法で、国民主権、象徴天皇、基本的人権、表現の自由、集会結社の自由、教育を受ける権利、労働の権利と労働三権、男女同権、女性の財産権保障、一人一人の「人格の完成」=自分自身の主人公となるための内面的司令塔の形成、男女共学などを定めた。これによって、「エゴイズム」「独立自尊」「個人主義」と共同体主義を含む人々の自由な自己表現の法的な既存基本ができた。
- ⑪ しかしながら、明治の皇室典範とほぼ同趣旨の男系の男氏による皇位継承を定めた皇室典範と、徳川時代以来、およそ 350 年にわたる身分制的な法制度と社会慣行は人々の生活の細部にまでわたって浸透しており、個人の自立、エゴイズムの実現は容易でない事態が続いている。
- ⑫ 第 2 次世界大戦後の高度経済成長や近年のグローバル化の下で、「個人の自立・自律」が日本も含む国際的な課題となっており、OECD（経済開発協力機構）の「キーコンピテンシー」の提案やそれを踏まえた「人間力」（内閣府）、「社会人基礎力」（経済産業省）、「学士力」（文部科学省）、「就業力」などが各省庁から提案されている。
- ⑬ この文脈において、「自己効力感の低さ」「自己肯定感の低さ」が問題視されているが、「エゴイズム」と「ソシオ・イズム」という近代世界における人間の基本的あり方の状況についてメスが入っていないので、「問題だ」「問題だ」と強調されるにとどまっている。これは、企業内における長時間労働、過労死の問題にせよ、学校その他における「いじめ」の問題にせよ、同様である。その現象が問題とされ、「深刻な反省」「再発防止」が表明されるものの、事態は、

必ずしも改善されていない。大学生からの聞き取り調査の結果によれば、強いものへの迎合が「いじめ」の連鎖を生んでいるものという（佐貫浩）が、その基盤には「エゴイズム」の適切な承認と自己表現と社会的協働へ向かう、技と知識と智慧の未成熟がある。

- ⑭ したがって、人々が、その持てる潜在的な可能性を十分に発揮するためには、エゴイズムと自己表現についての技と知識、智慧を磨いていき、それを社会的な常識にまで高めていく取り組みが、日本でも、アジア・太平洋地域でも世界でも、進められる必要がある。それを、一人一人の具体的な人、家族や地域、学校や職場、NGO、地方自治体や国家において、国際的な連携を含めて進めていくことが大事である。そして、そのような能力、教養を磨いていくことが、教育実践、社会的教育実践、自己教育・相互教育実践、キャリアデザインサポート実践の中心課題と考えられる。

資料を配って解説をしたときに、学生たちの反応はそれぞれだった。積極的に反応した学生たちは、前年もしくは前々年に、笹川が担当する「生涯学習入門（発達・教育入門）」で、このことに関する講義を受けて授業に臨んでいる人たちがほとんどだった。必ずしも積極的でない学生たちもいたが、それは単位を取ることに主眼を置いている人たちだったようだ。だが、前者の場合でも、概論授業だったので、ここまで突っ込んで解説をしておらず、強い関心は持っているものの、細部にわたると、「難しい」という反応だった。

(3) 「個人主義」と「共同」は相容れない？

～フランスの食品廃棄禁止法に関連して～

そこで、授業の補足として、この年の 2 月に成立したフランスの「食品廃棄禁止法」を例にのべた。この法律はスーパーマーケットなどが余った食品を廃棄することを禁じ、フードバンクなどを通じて食べ物で困っている人々のところに届けなければならない、という物だと言われている。そして、「個人主義が世界でもっとも発達しているといわれるフランスだから、共同も盛んで、こういう法律も作れるんだよね」といった。

すると幾人もの学生が怪訝な顔をして、「個人主義と共同はどう結びつくのですか」「個人主義と共同は反対のものではないのですか？」と質問してきた。

それで、その日は個人主義と共同の密接な関係について補足して終わった。

(4) 「エゴイズムを意識したのはいつか？」

次の週、人数は多かったが、模造紙とポストイットを使って作業をした。その内容は、「エゴイズムを意識したのはいつか？」というものだった。

すると、「高校 2 年生の夏」「中学生の頃」「小学校六

年生「妹が生まれてから」などがあがった。ここから、「エゴイズム」が、一定の成長過程とくに、思春期や青年期に意識されていることが分かった。

興味深かったのは、「エゴイズムという言葉を知った時」というのがあったことである。これは、日本語の「エゴイズム」がネガティブな内容になっていることと関係がありそうに思えた。

(5) 「エゴイズムはなぜいけないのか？」

この時のもう一つの内容は、「エゴイズムはなぜいけないのか？」というものだった。

これに対する答えとして、圧倒的に多かったのが、「自分勝手だから」「自分のコアとしか考えないから」「共同を壊すから」「和を乱すから」というものだった。

これに対して、ほんの少し、「エゴイズムが悪いとは思わない」というのがあった。

(6) 辞書を調べてみた

～ Oxford English Dictionary の衝撃～

そこで、辞書を提示した。はじめに、スタンダードの英語辞書とされる Oxford English Dictionary の「ego」「egoism」「egoist」を見た。すると、個々には否定的、ネガティブな内容はほとんど記されていなかった。そればかりか、「ego」「egoism」は、人間が主体的に考え行動するうえで不可欠のものであり、それがないと振り回される客体になる、と記されていた。

「ego」：
意識的な思考の主体、反対は「non-ego」すなわち客体である。Self-esteem=自己肯定、egoism =エゴイズム、self-importance =自己尊重。

「egoism」：
個人の一部であり、自分自身の内面世界を除いては何事も存在しえないという考え方。自己の関心や利害が道徳性の基盤だという理論。自己の関心や利害が、行動の原理を導く最も重要な要素だとみなすこと。
(派生的に) 自分のことしか考えない目的設定。すべての問いを自分との関係性において考える習慣。

「egoist」：
自分の行動決定の基準として自己の関心や利害を重視する人。派生的に、自分のことばかり話す人。

「egotism」：
自己中心癖。自己中心主義。

「selfish」：
他の人のことを度外視して、自分の優越や幸せばかり関心を集中させる人。人間の具体的な行動の動機は自

己愛 (self-love) だという考え方。

それだけでなく、「『エゴイズム』はいけない」「悪い」という考えは、「egoism」と「egotism」や「selfish」との混同が原因らしい、と感じ始めた。

(7) 辞書を調べてみた

～日本の英和辞典、国語辞典の問題点～

そこで、日本の英和辞典を調べてみた。すると、ほぼ例外なしに、「ego」については「ラテン語：私」「自我」「自尊心」などとなっているが、「egoism」については、「利己主義」「自己本位」「自己中心」となっている。そして、国語辞典では、「エゴイズム」は「利己主義」「自己中心主義」などが前面に出ている。

「エゴイズム【egoism】利己主義。主我主義。自己中心主義」(『広辞苑』第六版 岩波書店 2008年)

「エゴイズム【egoism】利己主義。利己心。哲学で、自我とその意識だけが実際に存在するとする考え。」(『日本語大辞典』第2版 講談社 1989年)

「エゴイズム【名】(英 egoism) 自分の利益だけを考え、他人のことを省みないこと。自己本位。わがまま。利己主義。…実際に存在するのは自我だけであるとする立場。」(『日本国語大辞典』第2版 小学館 2001年)

そして、「利己主義」は
「りこしゅぎ【利己主義】(egoism) 自己の利害だけを行為の基準とし、社会一般の利害を念頭に置かない考え方。主我主義。自己主義。人間の自己から出発して道徳の原理や観念を説明しようとする倫理学の立場。」(『広辞苑』第六版 岩波書店 2008年)

「りこしゅぎ【利己主義】他人の迷惑をかまわず、自分の利益、快樂だけを第一とする考え方。エゴイズム。」(『日本語大辞典』第2版 講談社 1989年)

「りこしゅぎ【利己主義】自分の利益や自分の立場だけを考え、他人や社会一般のことは考慮に入れず、わがまま勝手にふるまう態度。身勝手。利己説。エゴイズム。」(『日本国語大辞典』第2版 小学館 2001年)

(8) 《「egoism」→「egotism」「エゴイズム」

→「利己主義」→「身勝手」悪いこと》という図式

以上のことから、日本で刊行されている英和辞典や国語辞典の世界では、《「egoism」→「egotism」「エゴイズム」→「利己主義」→「身勝手」悪いこと》という図式が成立していることが分かる。そしてこれが、「エゴイズムはよくない」「身勝手だから」と人々が考え

る、一つの根拠である。そしてもともとは英和辞典でもある『ロングマン 英和辞典』でも「特に日本の英語学習者のニーズにこたえるよう編纂された全く新しい」英和辞典です」ということで、「e-go-ism…利己主義、身がって、自負」とされている（『ロングマン英和辞典』桐原書店 2007年）。

こういうことであれば、「自己効力感」「自己肯定感」が弱い若者が多いことは、若者だけの責任とは言えないだろう。

なお、韓国語版の『CROWN ENGLISH-KOREAN DICTIONARY』の訳語も日本の英和辞典と同じ内容であった。

これらを調べるにあたっては、資格課程の山本洋、片桐久美子両助手に大変お世話になったが、学生たちには大きな衝撃が走った。

(9) 「エゴイズム=利己主義」の背景は何か？

では一体、なぜ、こんなことが起きたのだろうか？そこには歴史的な背景があったと考えられる。なぜなら、言葉は社会的な生き物だからである。つまり、肯定的、積極的な「egoism」がネガティブな「エゴイズム=利己主義」になったのは、社会の未成熟と思想的、制度的背景があったと考えられる。

ということで、先に述べた、『ヨーロッパ文化と日本文化』『和俗童子訓』『女大学』『大学』、デカルト『方法序説』『学事二関スル被仰出書』『学問のすすめ「初編」』『女大学評論』『新女大学』『教育勅語』『大日本帝国憲法』『私の個人主義』『みだれ髪』『日本国憲法』『教育基本法』などを資料として配布し、解説をした。

とくに、『女大学』については関心が高く、「今でも『三従』や『七去』のような内容はなくなっていないと思う」という反応も強かったので、また、模造紙とポストイットを使った作業を行った。

また、福沢諭吉の『学問のすすめ』では、「職分」という、身分制を支えた用語を使いながら、職業にかかわる士農工商の「職分」と、「国民の職分」「人民の職分」「政府の職分」「人の職分」という、すべての人に共通の「職分」=ミッション、使命を重ね合わせていることを丁寧に説明した。それによって、自由で平等な社会の担い手という役割と、その中での職業をはじめとする個々

人の役割との両方を重視することができたからである。それは、今日キャリアデザイン、キャリア教育が言われるときに、職業だけを一面的に重視して、市民社会の担い手や人間としての多面的な生き方が軽視され、結果的に、職業キャリアもうまくいかない傾向もあるからである。

(10) 自己表現には十分な時間が取れなかった

最初の授業計画では、これらを踏まえたうえで、個人的、社会的次元での自己表現に時間を割く予定だった。しかし、資料解説と模造紙とポストイットの作業やそのまとめで時間がかかった。その結果、自己表現については、最初の配布物である「エゴイズムと自己表現(覚え書き)一人と自然と社会のキャリアデザイン・生涯学習の視点から一」を使っての解説にとどまった。

3. 期末試験レポート

半期の授業のまとめとしての期末試験は、パワポ形式のレポートとした。

その構成として次の点を指定した。

- ・表紙、1ページ。
- ・1、授業前の認識。3スライド、1ページ。
- ・2、授業を通じて変わった点、3つ。3スライドで1ページ。合計、9スライド、3ページ。
- ・3、これからの研究と取り組みの予定。3スライドで1ページ。

パワポ形式としたのは、振り返りと今後の展望について、じっくり取り組んでほしかったからである。出てきた作品には力作が多かったが、これについての紹介はまた稿を改めたいと思う。

実際に授業を行って、学生の反応を見て、「エゴイズムと自己表現」というテーマは日本やアジアでの特殊性だけでなく、アメリカやヨーロッパを含む世界全体での普遍性があるように、改めて思った。そしてそのためには、表現について、個人的次元のことと共に、社会的な表現、作品化も視野に入れる必要があると考えた。例えば、ソニーの創業者井深大が本業としてのソニーの経営とともに、次女が障害者であったことから障害者施設を作り、自分が理科が好きだったので、理科教育を振興する組織を作ったように。